

## 平成 26 年度第 1 回経営工学教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

I. 日 時：平成 26 年 4 月 17 日（木）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：渡邊委員長、井上委員、玉木委員、後藤委員、小池委員  
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本

### IV. 議事内容

#### 1. 平成 26 年度委員会活動の進め方について

- ・ 能動的学修実現に向けた効果的な取り組み方策の研究について

#### (1) 委員会活動の進め方の変更とこれからの教育方法・体制の方向について

- ・ 今年度より、前年度まで委員会で検討・確認してきたことを、公開していくことを活動の中心におく。プランを打ち上げるのは終わり。
- ・ 能動的学修（Active Learning, 以下 AL と略す）について、研究しながら普及・促進するステージに入っていく。
- ・ 一方向的な講義型の授業を止め、講義と演習の中で学生に議論させることによって定着を図るタイプの授業を促進していくのも私立学校の役割である。
- ・ 教員はこれまでより更に主体性を持って授業を行わなければならない。シラバスには、毎回の教授項目の他に、予習・復習内容を記入し、教員間でお互いにチェックする体制も必要。
- ・ 授業の評価をフィードバックし、授業を全学的・組織的に振り返る体制が必要。
- ・ 学修を自律的に進められる、社会で遭遇する解の無い問題で挫折しない学生を育てる。常に問題発見を心掛け、学びを生涯に渡って継続できるようにしてやるのが学生にとっての幸せではないか。

#### (2) 今秋実施する対話集会に関する検討

- ・ 全体の時間は 2 時間程度。
- ・ 事前準備として、「理解の共有」は先生方が勉強する段階。「内実のある議論を通して、学生に主体性をどう持たせられるか」について VOD を利用して勉強してもらう。
- ・ 定義や細かい詳細情報を web 上に載せ、それを予め勉強しておいてもらい、その上で参加してもらう。
- ・ 「取り組み事例」は 40 分程度。
- ・ 事例紹介では、各大学の成功事例だけでなく、失敗例も紹介してもらう。
- ・ 教育効果の測定方法についても紹介。グループで議論している際の個人の評価をどうするのか、どうすれば客観的なチェックとなるか。
- ・ 意見交流のポイントは、議論と講義の割合に関する議論、新しい教育方法に合わせた成績の判定方法、判定基準をどう考えるか。
- ・ 委員の他に有志にも参加してもらう。動画に撮っておく。軽い編集をした後、大学名、個人名は載せないで後日サイトに公開。参加できない先生方に web 上で見て

もらう。

- ・ 参考意見を後出ししてもらい、課題の整理を行い、次年度の対話集会のための検討材料とする。
- ・ 今回のこの研究活動は3年間で終了する予定。
- ・ 多くの先生方で、様々な問題を凌駕し、質の高い授業を作ることが目標。

## 2. 対話集会に向けた今後の研究の進め方について

### (1) 対話集会の日時と場所についての検討

- ・ 次の委員会で開催要項を決定し、ネット上に流す。遅くとも9月には流したい。9月上旬には開催プログラムができあがっていることが望ましい。その際、当日のコーディネートを誰に依頼するかも決めなければならない。
- ・ 今年度は委員会を2回しか開催しない。その後、いきなり対話集会となる。
- ・ 周知・認知期間が短くならないよう、対話集会の日程を決める必要がある。
- ・ 11/29（土）午後2時間程度（14時～16時）。
- ・ 経費節減のため、大学の講義室を無料で貸してもらう。
- ・ 教員が30名程度参加することを想定し、60名強の講義室を用意してもらう。プロジェクタとマイクさえあれば良い。
- ・ 会場校の教職員も参加可能とする。
- ・ 経済学、経営学のメンバーにも参加を呼び掛けることも考えられる。但し拵げ過ぎると困る場合もありうる。

### (2) 次回の委員会で対話集会の開催要項を作成

- ・ 委員の事例紹介に口火を切ってもらう。他の先生に上手くいっている事例、上手くいかない事例を紹介してもらう。運営で上手くいっている（大学の事情に依る所が大きい）、上手くうまくいかない例も含める。上手くいっている原因として、学習環境、周囲の応援、学長の理解、事務の理解、などが考えられる。
- ・ 司会者は次回委員会以降に決める。
- ・ 結果を伴うには時間が掛かるものである。できるだけ早く各先生に伝え、授業改善の切っ掛けを作ってもらう。

## V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は7月2日（水）18時に開催する。
- ・ 次回に委員による取り組み事例の説明を予定する。